

電気バスの運行管理とエネルギーマネジメントの一体的なシステム開発 ～電気バス100台の運行管理の実現に向けて～

2022年7月20日

関西電力株式会社

大阪市高速電気軌道株式会社

株式会社ダイヘン

株式会社大林組

東日本高速道路株式会社

■ 全体像

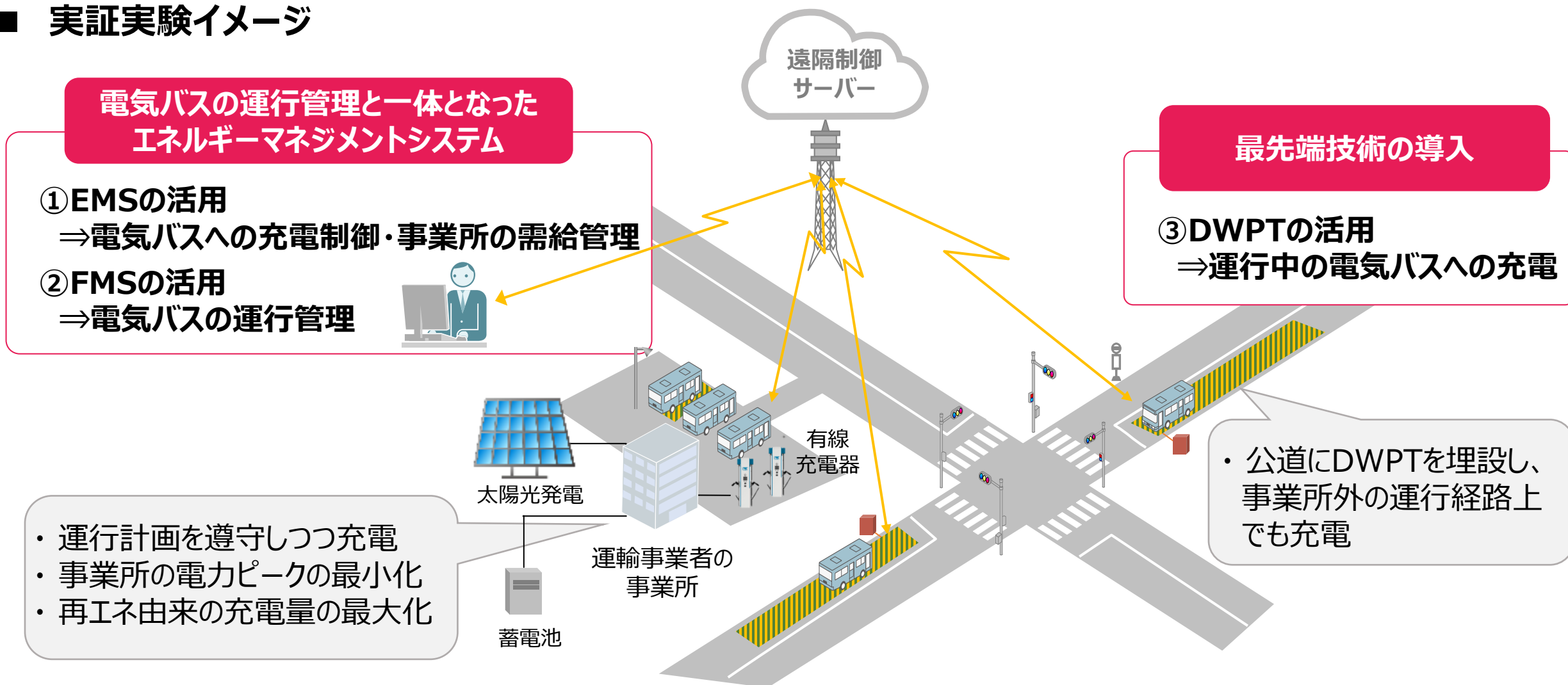
- 「EMS※¹ × FMS※²」（電気バスの運行管理と一体となったエネルギーマネジメントシステム）を用いて、運輸事業者が事業所に電気バスを大量導入した場合の電力使用の負荷平準化や、再生可能エネルギーの有効活用を行い、効率的なエネルギー利用が可能な社会を実現
- 走行中給電システム※³（以下、DWPT）等の最先端の技術も導入し、カーボンニュートラルを実現できる持続可能なスマートモビリティ社会を構築

※1 Energy Management System 電気バスの効率的な充電と電気料金のコスト抑制を両立させる制御システム

※2 Fleet Management System 車両の運行計画の作成や管理、手配などを行うシステム

※3 Dynamic Wireless Power Transfer 電磁誘導の原理を用い、道路に埋め込んだコイルから電気バスに設置したコイルへ、無線で電気を送るシステム。

■ 実証実験イメージ

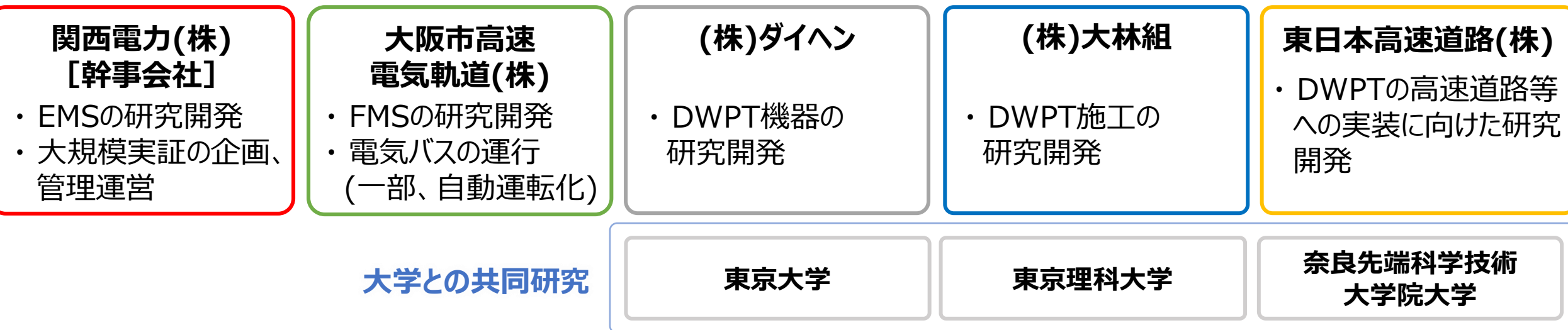


■ 各開発内容（一部抜粋）

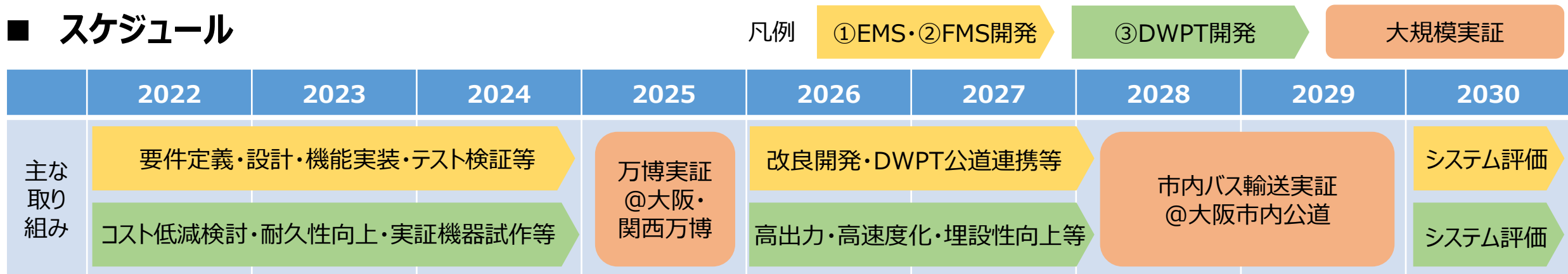
①EMS開発	②FMS開発	③DWPT開発
<ul style="list-style-type: none"> 大量の電気バス導入時の充放電計画策定機能 FMS連携による運行計画取得機能 様々な充電方式※1との接続機能 再エネの有効活用機能 	<ul style="list-style-type: none"> 運行経路、乗降地点、運行時刻が定めなく、利用者の要望に応じて変わるオンデマンド型交通※2にも対応可能な運行管理機能 EMS連携による充電可能な経路情報などの取得機能※3 	<ul style="list-style-type: none"> 機器コスト低減手法の確立 高出力化・高速度化※4 高速道路等を含む公道に適合した機器開発および埋設技術の確立

- ※1 様々な充電方式 : 普通充電器、急速充電器、走行中給電システム（DWPT）
 ※2 オンデマンド型交通 : 一般的な路線バスと異なり、利用者の要望に応じて運行する乗合型の公共交通サービスの形態
 ※3 経路情報などの取得機能 : 埋設されたDWPTによる充電が可能な経路をEMSから取得する機能
 ※4 高速度化 : DWPT上を走行中の車両の速度が上がっても充電できるようにすること

■ 開発体制（コンソーシアム内における役割分担）



■ スケジュール



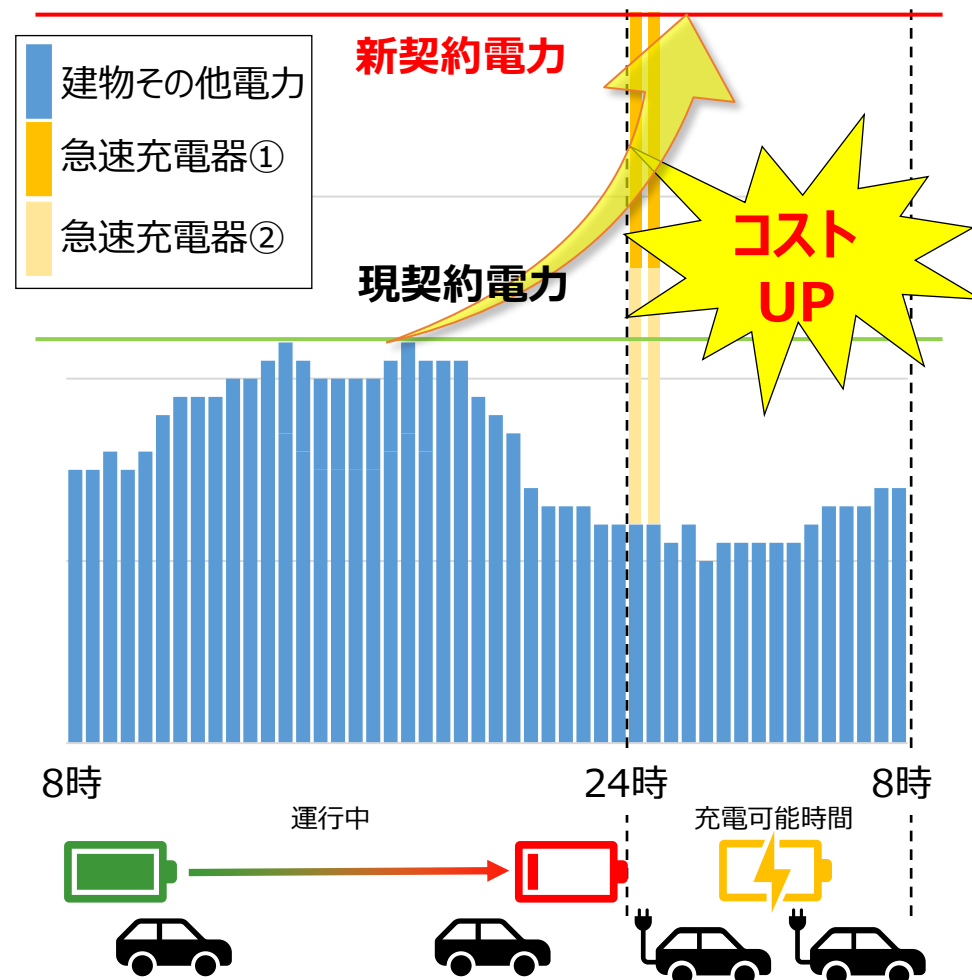
■ エネルギーマネジメントを行うメリット

- ▶電気自動車や電気バスの運用には、日々の充電が必要不可欠であり、大容量の充電システムを使用すれば短時間での充電は可能
- ▶一方で、大容量充電は契約電力を増大（基本料金の上昇）させ、電気料金の増加にもつながり、大規模な電気設備への投資とメンテナンス費用が必要となる場合もある
- ▶このため、エネルギーマネジメントにより、効率的な充電とコストの抑制の両立を実現する

【EMSなし】

急速充電器2台を一気に充電

⇒ 短時間で充電できるが、契約電力が大幅増



【EMSあり】

充電量を制御しながら効率よく充電

